全旅連 JKK

後継問題など意見交換

6年ぶりオープンセミナー

「後継問題」「AI」などについて意見を交わした公開ワークショップ

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会・女性経営者の会（JKK、山田佐知会長）は12月10日、神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ（神戸市）で、オープンセミナーin神戸を開催した。JKK会員や兵庫県旅館ホテル生活衛生同業組合の組合員など約90人が参加。観光の未来について講演を通し学んだほか、後継問題など四つのテーマについて初めてワークショップを行い、JKKの活動などを発信した。

コロナ禍などによりオープンセミナーの開催は6年ぶり。冒頭あいさつした山田会長は2024年にJKKが創立20周年を迎えたことに触れた上で、「30周年に向けてスタートした中で、JKKのメンバーが日ごろからどれだけ真摯（しん）に宿の経営に向き合っているのかを、お世話になっている皆さまに知っていただく機会となればとワークショップを企画した。女性初の総理大臣も誕生し、女性活躍の時代が来ていると手ごたえを感じている。研さんを重ねる中でこの業界の地位向上の一助になれば」と期待を込めてあいさつした。

初めに行ったイノベーション勉強会では、社会起業家の山下太郎氏をファシリテーターに、ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサーの古田菜穂子・兵庫県立大学大学院特任教授が、「兵庫県の観光と今後の日本の観光の未来について」をテーマに発表。大阪・関西万博を契機に同県が取り組んだ「ひょうごフィールドパビリオン」の取り組みの狙いや成果などを概説した上で、新たな観光トレンドとしてのプラネタリー・ヘルスツーリズムなどの考え方などを紹介。その上で「地域の自然や風土を見つめ直し、豊かな新しい暮らしのあり方を創造する、地域振興的な文化的行為が、皆さんがやっていること。それにプライドを持っていくことで、今後働きたい若い人のプライドと給料が上がると思うし、そういう取り組みにもつながる。観光は、最後は『人』。どんどん観光の光を発光させてほしい」とエールを送った。

公開ワークショップでは、「後継問題について」「直販を増やすには」「人材不足の時代における働き方改革について」「AIが今後宿泊業界にどのような影響を与えるかについて」の四つのテーマについて、全旅連の理事や青年部、兵庫県旅組の組合員らも交えて意見交換。参加者がそれぞれ自分の施設での取り組み状況や課題解決の経験などを披露し合い、考えを深めていた。

オープンセミナーの冒頭には、斎藤元彦・兵庫県知事が激励に駆け付けあいさつしたほか、ひょうご女将の会のメンバーも参加。女将の会を代表してあいさつした木下圭子会長は「大変活発な意見交換などの様子に元気をいただき、90歳まで女将を続けようという気持ちになった。宿の経営が厳しいときも、女性が踏ん張ればなんとかなるもの。頑張ってまいりましょう」と力強く語った。

リョケン・旅館大学セミナー

旅館の「経営指針」示す

山梨・下部ホテルの事例共有も

コンサルタントのリョケンは12月8、9日、通算170回目となる旅館・ホテル関係者向けセミナー「旅館大学セミナー」を下部ホテル（山梨県・下部温泉）で開講した。全国の旅館・ホテル経営者らが参加した。

8日は館内見学とアクティビティ体験、下部ホテル社長、矢崎道紀氏による講演などを催した。下部ホテルは2025年、体験型リゾートの展開を目指すMAGMA（東京都渋谷区）と業務提携。MAGMA社が館内一部スペースに、子ども向けアクティビティを多数提供し、ファミリー層をターゲットとする体験型の宿泊ブランド「MAGMA RESORT Shimobe」をオープンした。温泉旅館内に別のブランドが共存する「体験×旅館」の新たなビジネスモデルに挑戦している。

セミナーの様子

下部ホテルは、利用頻度が低下していた大宴会場、レストランなどをMAGMA社に貸し出しており、当日は「和紙の織り染め」と、「シューティングゲーム」を体験した。

続いて行われた矢崎氏の講演テーマは、「100年企業への挑戦、環境変化をとらえ進化を続ける温泉旅館を」。

矢崎氏が下部ホテルに入社した15年前は、団体客に依存しており、個人客の評価が低迷していた。そのため、個人客向けの施設づくりに転換を図った。出来たて料理の提供に加え、客室、料理会場の改装を進めた。併せて、生産性向上に取り組み、その切り札としてマルチタスクを導入。従業員の公休数、給料など、他業種並みの待遇改善を図った。その結果、労働環境が大きく改善し、社員の定着率が高まったと報告した。

9日は、リョケンの佐野洋一社長による基調講演と、鈴木健太主任研究員らによるテーマ別講演が開かれた。

佐野氏は、令和8年・旅館の経営指針「リ・ポジショニング 新たな視点・新たな可能性」をテーマに講演。旅館業界で環境・料理・サービスの3要素を強化し、高付加価値化を図る必要があると指摘し、独自の強みを生かし地域連携や、体験要素を取り入れ差別化を推進する必要があると唱えた。

一寸先は旅人街宿

神崎公一

—45—

日本のクルーズ人口100万人へ

新型コロナウイルス感染症がまん延する数年前の2015年、筆者は地中海クルーズを体験した。ローマから乗船し、フィレンチェやモナコ、マルセイユ、バルセロナなどを巡り、ポルトガルのリスボンまでの4カ国7泊の旅だった。日本に戻って友人たちにこの話をすると「ずいぶんとぜいたくだね。さぞ高額だったんだろう」と驚かれた。

しかし、筆者が乗ったのはカジュアルクルーズというお手頃価格の商品だった。円高の影響もあり、船内の食事とエンターテインメント施設利用を含め代金は14万円ほど。それに加え、東京―ローマ、リスボン―東京の往復の航空券が12万円ほどだったと記憶している。

金額的にはヨーロッパ1週間程度のパッケージ旅行と同程度ではないかと友人たちには説明した。すると、今度は「ドレスコードがあるだろう」とか、「行きたいのはやまやまだけど、英語がしゃべれないから、ためらうな」などの消極的な反応が多かった。

あれから10年ほど経て日本旅行業協会（JATA）と日本外航客船協会（JOPA）、そして日本国際クルーズ協議会（JICC）は、このほど2030年に日本人クルーズ人口100万人を目指す「Let's CRUISE 1M（Million）～100万人で行こうよ！船旅へ～」をキャッチフレーズに新たなロゴを定め、船会社と旅行会社が手を携えて取り組んでいくと宣言した。

日本のクルーズ人口は2024年に22・4万人で、ピークである19年の35・6万人には及んでいない。そうしたなかで、100万人は大胆な数値である。ただ、25年7月には日本郵船では34年ぶりとなる新造船、飛鳥Ⅲが就航し、飛鳥は2隻体制となったほか、28年度就航予定のディズニークルーズのオリエンタルランドが日本外航客船協会に加盟するなど、明るい話題が相次いだ。

こうした追い風に乗ってシニア層だけではなく、若い世代や家族連れなどもターゲットとし、クルーズの楽しさ、快適さを知ってもらうよう説明会などを通じ情報発信を活発化させPRに努めるという。

クルーズは地域創成や伝統文化の紹介にも力を発揮する。クルーズ船が到着する港ではさまざまな歓迎行事なども開催される。多くの乗船客がその土地で観光周遊をするため、地域活性化にもつながると期待されている。

その一方で、何千人もの客が1度に上陸するため、地元でタクシーやバスの手配が追い付かなくなったり、交通渋滞が発生したりという問題を指摘する声も聞かれる。夕方には船に戻ってしまうため、その土地で宿泊せず、旅行消費につながらないとの意見もある。

しかし、関係者は課題を整理し、理解と納得を得ながらさらなるクルーズマーケットの拡大にと意気軒高だ。筆者が体験した地中海周遊に限らず、クルーズの旅は、夜間に船は次の寄港地に向け運航され、翌朝には上陸観光をして、夕方には船に戻り夕食を取る。このため、毎朝荷物をトランクに詰め慌ただしく次の目的地に向かう面倒やアルコールを除けば食事代込みの値段を考えると割安であるなど、肯定的な口コミも広がっている。100万人のチャレンジングな目標の行方に注目したい。

（日本旅行作家協会常任理事、元旅行読売出版社社長）

＝月1回掲載

観光立国・その夢と現実

小原健史

—70—

私の人生訓⑥

旅館ホテル・施設・団体

タワー館の増築の際の莫大な投資の影で、何年にもわたる資金繰りの苦しさから重度の心身症になった私を、そのドン底から救い上げてくれたのは「五感の演出」などの効果で、後日「しびれるような和風旅館」とも言われた【水明荘】であった。

お客さまの心理というものはこのように厳しくもありがたいのか？と思うほどで「和多屋別荘の団体料理は魅力もないが、水明荘の料理や仲居のサービスは素晴らしい」と今まで和多屋別荘を見向きもしなかった方々が水明荘を訪れていただくようになった。月日の流れとともに口コミの効果が最大限に発揮されたのであるが、そのバロメーターが利用金額である。

その当時は和多屋別荘の平均単価が1泊2食で1万円だったので、水明荘は恐る恐る1万8千円の値付けをしたのだが、まさにあっという間に1泊2食で3万円になり、しかも、連日満室になった。米国西海岸旅行で感じた【和風旅館の墓本に戻ろう】との意識が見事に結実したのだった。

水明荘のお客さまが増加した実例を一つ紹介したい。私が若いころは、地元の旅館組合や商工会、旅行エージェントの協力会など多くの会議や懇親会が毎週のように開催された。懇親会の後は嬉野温泉の歓楽街に繰り出すのが恒例にもなっていたが、ある夜スナックに行って皆でカラオケに興じていると、私の方をチラチラと刺さるような鋭い視線を感じた。気になってその人物の側に座ると、いきなり「あんた誰ね？」と聞かれ（内心、失礼な人だなと思いつつ）「私は和多屋別荘の小原です！」と言うと、その人は酔っていて「俺は和多屋と小原嘉登次が一番好かん！」と宣うた。すかさず「私も小原嘉登次は好かんですよ！」と言うと、一瞬の空白の後、お互いに顔を見合わせて大笑いになった。

この人物は中島宏という青磁の陶芸家で、後日、人間国宝にまで昇り詰められた人物である。意気投合したかのように中島宏先生と私は、その日は夜が白むまで酒を飲み、うたった。

翌日、デスクで仕事をしているとフロントから「中島さまという方がお見えです」と言われ、飛ぶようにロビーに行くと、昨日の中島宏先生だ。早速、水明荘に案内して2日続きの宴会となったが、その次の日は宏先生の親友ということで同年輩の着物姿の男性も一緒に来られた。ごあいさつをしたら「親友の中島宏が和多屋別荘がえらい良うなったと言うもんで、お世話になります」と言われ、私はひっくり返るほど驚いた。

目の前の人物は、あの有名な第十四代酒井田柿右衛門先生だったのだ。予約も何もあったものではない、たまたま水明荘の最高級の客室「洗心」が空いていたので、また3日越しの宴会となった。それから3日に空けず十四代と宏先生は水明荘に来館され、最高級の部屋で最高級の料理と酒となっていった。

後にお2人とも人間国宝になられたが、地元では偉大な陶芸家のお2人と毎回ご一緒に夕食をいただき酒を飲みながら（私は極めつけの下戸であるが）お聞きする話＝情報は、陶磁器だけでなく、政治、経済、文化、スポーツなど一流の情報と人的な交流の輪は、私を異次元の世界へと誘うかのようであった。確かに世界の陶芸界をリードする柿右衛門先生の周りには、世界的に、全日本的に一流の人々が群がってくる。特に、スポーツの人脈はすごかった。野球の王監督、稲尾元投手、東尾元投手はじめ若手は数えきれない。また、大相撲の藤島親方（初代貴乃花）と若き日の若貴兄弟が来られた時は、私の目の前に若乃花、貴乃花が座りフグの薄造りを有田焼の大鉢で、わずか4回から5回くらいですくって平らげてしまった。水明荘の高級料理など全くお呼びでない、質より量だ！

その日は多分、厨房の材料は全て空になったのではないかと思われるほどの食べっぷりであった。

また、柿右衛門は、尊敬すべきことには、常々、有田焼の将来を考えておられ、私に向かい「おい、表六玉（十四代が酔った際には、なぜか私の名前はヒョウロクダマになったのだが）最近の有田焼は、科学の進歩かなにか知らんが、不純物の全くない陶土や絵の具だらけで、焼き物がプラスチックのようでいかん。有田の赤玉（古陶磁の有田焼の赤い玉の絵柄）は、現代の赤とは違う。有田の赤玉は何となく渋く、貫録がある。それは純も不純も包含した赤だ。人間もそうやろうが表六玉！」と。

（元全旅連会長）

＝月1回掲載

全旅連 青年部

パリ国際会議に参加

特区民泊の事例共有

世界の宿泊産業関係者が集う国際会議「Global ReformBnB General Assembly in Paris 2025」が12月3～5日、フランス・パリで開かれた。22カ国から宿泊事業者、自治体、短期賃貸（STR）プラットフォーム、研究者、国際団体など多様な関係者が参加し、活発な議論が繰り広げられた。

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）青年部からは塚島英太部長をはじめ7人が参加した。

主な内容は①宿泊産業共通のサステナビリティ基準づくりに向けた共同声明の準備開始②STRプラットフォームと自治体の協力強化に関する国際的な意見交換③住宅市場・地域コミュニティへの影響を最小化する政策モデルの共有④中小宿泊事業者のデジタル化支援や公正な流通環境について具体的提案の提示など。

会では、青年部の菅原真太郎政策渉外担当副部長が登壇し、大阪の特区民泊の事例をはじめ、日本国内における宿泊市場の実態を説明した。

館内でマルシェ 30店舗がずらり

ホテル観洋

南三陸ホテル観洋（宮城県・南三陸温泉）はこのほど、地元グルメや手づくり雑貨などを販売する「南三陸キラキラマルシェ」を同館で開いた。地元から多彩なジャンルの約30店舗が出店し、地域の魅力を発信した。

地域で生まれた食品や雑貨、アロマといったリラクゼーションアイテムなどを販売。隣接施設では、専用ハンドメイド雑貨、アロマといったリラクゼーションアイテムなどを販売。隣接施設では、専用

マグロ解体ショー

缶を鹿児島にかけて蒸し焼きにする「カキのカンカン蒸し」や「たら汁」も振る舞われ、来場者の関心を集めた。

迫力満載の「マグロ解体ショー」も開催。宮城県気仙沼市に在住し、地域の魅力発信に努める、「よしもと住みます芸人」のけせんぬまペイ！さんが盛り上げ役を務め、軽妙なトークで会場を沸かせた。

謹賀新年　令和八年 賀正

（順不同）

野口観光株式会社
野口観光マネジメント株式会社
野口リゾートマネジメント株式会社
登別　石水亭
望楼NOGUCHI登別
絶景の湯宿　洞爺湖畔亭
源泉の湯宿　洞爺ごきらく亭
ザ・レイクビューTOYA　乃の風リゾート
BOUROU LAKE TOYA
層雲峡　朝陽亭
層雲峡温泉　朝陽リゾートホテル
函館湯の川温泉　湯元啄木亭
HAKODATE海峡の風
望楼NOGUCHI函館
北湯沢温泉郷　緑の風リゾートきたゆざわ
北湯沢温泉郷　きたゆざわ森のソラニワ
北湯沢温泉郷　湯元ホロホロ山荘
定山渓温泉　章月グランドホテル
新苫小牧プリンスホテル　和～なごみ～
室蘭プリンスホテル　室蘭ビュー
第二プリンスホテル
箱根　きたの風茶寮
奥湯河原温泉　山翠楼SANSUIROU
奥湯河原温泉　海石榴つばき
湯河原千代田荘
代表取締役社長　野口和秀
本社　北海道登別市登別温泉町二〇三―一
TEL　〇一四三（八四）二三五〇
FAX　〇一四三（八四）三二五六

黒部峡谷　宇奈月温泉
延樂
代表取締役社長
濱田政利
〒938-0282
富山県黒部市宇奈月温泉 347-1
電　話（0765）62-1211
FAX（0765）62-1076

信玄の湯 湯村温泉
常磐ホテル
石和温泉郷　甲州牛の宿
石和常磐ホテル
代表取締役社長
笹本 健次
〒400-0073　山梨県甲府市湯村2-5-21
TEL 055-254-3111
FAX 055-253-0691

扇ホールディングス株式会社
代表取締役
齊藤忠政
扇温泉　明神館・松本丸の内ホテル
ヒカリヤニシ・ヒカリヤヒガシ
Satoyama villa DEN
Satoyama villa 本陣

創業1806年・熱海温泉
古屋旅館
FURUYA RYOKAN
代表取締役
内田宗一郎
熱海市東海岸町5-24
電話：0557-81-0001
E-Mail：info@atami-furuya.co.jp

伊豆修善寺温泉
新井旅館
代表取締役
相原昌一郎
〒410-2416
静岡県伊豆市修善寺970
TEL（0558）72-2007
FAX（0558）72-5119

秀峰閣 湖月
SHUHOUKAKU KOGETSU
代表取締役社長
小佐野国博
〒401-0304
山梨県南都留郡富士河口湖町河口2312
TEL.（0555）76-8888（代）
FAX.（0555）76-8940
http://www.kogetu.com/

伊豆修善寺温泉
柄生の庄
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺1116-6
TEL 0558-72-4126　FAX 0558-72-5212
http://www.yagyu-no-sho.com

It's Forest Group
Hotels & Resort
代表取締役
石田浩二
神奈川県足柄下郡湯河原城堀207番地
TEL：0465-62-5540

下部温泉
自然のままに 心のままに
まっくん ぽっくん
下部ホテル
代表取締役社長
矢崎　道紀
〒409-2947
山梨県南巨摩郡身延町上之平1900
TEL 0556-36-0311(代)
FAX 0556-36-1611

箱根小涌園 天悠
TEN-YU
支配人
清水敬三
藤田観光株式会社
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1297
TEL：0460-82-5111
FAX：0460-82-5113
https://www.ten-yu.com/

Mt.YOKOTE 2307
一茶のこみち 美湯の宿
志賀パレスホテル
代表取締役
斉須正男